

事前提出された意見等とそれに対する事務局回答（審議事項）

No.	該当箇所	ご意見等	回答
1	1-(1)	P1 計画策定の趣旨 「CO2削減の近年の情勢」については全く触れられていませんが、よろしいでしょうか？	一般廃棄物の焼却、特に廃プラスチックの焼却時には多くのCO ₂ が排出されることから、CO ₂ 削減が必要となる背景について、素案の段階で「計画策定の趣旨」に以下の内容を踏まえて記載いたします。 地球温暖化に伴う気候変動や天然資源の枯渇、マイクロプラスチックによる海洋汚染など、世界規模で環境問題が深刻化していることから、二酸化炭素排出量の削減や環境への大きな負荷の抑制が全世界共通の課題となっています。
2	2-(1)	P3 図2-1 「世帯数の推移」も示されたらどうでしょうか？	素案の段階で図2-1に世帯数を記載いたします。
3	3-(1)	P3 ゴミ処理の現状把握 1. ゴミ関連施設の現状を示す。「堆肥製産センター」や「佐久平クリーンセンター」、「プラごみの状況(ステーション)」、「瓶回収現状(ステーション)」など。 2. 「ごみ総排出量」、「可燃ごみ」で話しが組まれていますが、可燃ごみも「生活系」、「事業系」に分けて記載することや、地域毎に状況が違いますので、地域毎に現状を明示（「市街地」、「望月・浅科」、「臼田」など）するなどの書き方が必要であると思います。対策も、地域毎になるかと思えます。	ごみ関連施設の現状について、素案では「ごみ処理体制」についてまとめ、ごみの分別区分や収集運搬体制、処理施設の状況など詳しく記載いたします。 ごみ排出量については、「生活系ごみ」と「事業系ごみ」を「収集・直接搬入」別、「可燃ごみ・埋立ごみ・資源物」別に把握し、資源ごみについては、さらに「品目」別に把握いたします。 地域ごとのごみ排出量については把握できておりませんが、地域ごとのごみの収集体制等の違いについても記載いたします。
4	3-(1) 4-(5)	令和4年度(2022年4月1日)から、家庭ごみの分別が変わり、「埋立ごみ」のうち、ゴム・皮製品・わた製品・プラスチック製品(容器包装プラスチックを除く)等と、スポンジ製品・低反発素材製品を「可燃ごみ」として出せるように変更されました(事業系ごみにについては変更なし)。4頁 図3-1 この分別変更が、如実に令和4年度の可燃ごみ排出量に表れています。 変更から2年近く経ち、「ごみの大部分は可燃ごみとして出してよい」という意識が、市民に浸透してきているのを感じられます。 総排出量の減量化を目指して、生ごみを堆肥化、プラスチック製品を資源化に、分別を細分化して市民に協力を求めたいところですが、いちど緩められた分別を再び引き締めるのには、市民のごみに対する意識改革と共に、継続的・地道な分別への呼びかけ(各地区の衛生委員に大きな負担になるのでは)が必要になると思います。	ご意見のとおり、令和4年4月に分別変更を行い、埋立ごみとしていた品目の一部を可燃ごみに変更しました。可燃ごみの対象となる品目が拡大したことにより、利便性が向上したと考えております。今後も、ごみの減量化や正しい分別方法について、啓発を実施していきます。 また、製品プラスチックの資源化など分別の変更を必要とする施策の検討を進めてまいります。市民の皆様にご協力いただけるよう、周知や啓発方法もあわせて検討していきます。
5	3-(1) 5-(1)	8頁 図5-1 居住形態・地域(戸建・集合住宅・市街地・周辺地区)別の可燃ごみに含まれる食品ロスの内容割合が示されていますが、可燃ごみの1人1日当たりの排出量も居住形態・地域によって顕著な違いがあるのか、実態を知る上で気になるところです。	可燃ごみの1人1日当たりの排出量については、居住形態や地域別の把握はしていません。 しかし、今回食品ロス調査を実施したことで、居住形態や地域別のごみ排出の実態について、ある程度把握することができると期待しています。この調査では、食品ロスだけでなく、ほかの品目についても組成の把握を行っており、居住形態別、地域別に可燃ごみを20品目に仕分けを行っております。現在解析中ですが、一例として、戸建てと集合住宅を比較した場合、集合住宅ではペットボトルや缶の混入がみられました(これは、スーパーやコンビニで食事を購入し、ペットボトルや缶を弁当などの容器と一緒に捨てているのではないかと推測されます)。解析結果、抽出された課題やそれに対応する取組につきましては、素案の段階でお示しいたします。
6	3-(3) 4-(5)	可燃ごみの減量化について 生ごみ処理機等を購入する際に市から補助金が出ていたようですが、私が以前住んでいた市(人口規模は佐久市とほぼ同じです)では、民間の団体とコラボして段ボールコンポストの普及をしていました。私の家でもやっていたのですが、生ごみはほぼ出なくなりました。野菜ごみが数日で分解するのは驚くほどでした。こちらでもピートモスと燻炭(以前住んでいた市で使っていたのとは少し違いますが)を買ってきて、やってみていますが、気温が低いせいか、基礎材が違うのか、思ったほど分解は進みません。それでも、ある程度は処理ができているのだと思いますので、各家庭で、生ごみの処理を普及させるのは有効ではないかと思えます。上記のようにバクテリアによる分解が目に見えるような方策は、環境教育的にも優れているのではないかと思えます。冬の低温など、その地方なりの方策は検討する必要はあるかとは思いますが。 それに、一般化するには、もし生ごみ処理ができたとしても、できた堆肥を自分で使える人はいませんが、畑などない人も多いので、それを回収するシステムは必要かもしれません。	佐久市でも、以前はダンボールコンポストの利用を推進していましたが、ご指摘のとおり、冬季には低温のため分解が進まず、また水分のコントロールが難しいことから、現在は、生ごみ処理機やコンポストの利用を推進しております。 環境教育の観点から、ダンボールコンポストはごみの分別や資源化について関心を持ってもらうための教材としての活用を検討いたします。

事前提出された意見等とそれに対する事務局回答（審議事項）

No.	該当箇所	ご意見等	回答
7	3- (3) 4- (5)	<p>可燃ゴミの減量化について、資源ゴミとの分別の徹底は大事だと思います。一部の世帯対象になりますが、保育園や小学校に働きかけ、園児や児童にゴミに関して興味を持ってもらうのはどうでしょう。家で親子でゴミの分別が出来れば資源ゴミの分別の徹底が進むのではないかと思います。</p> <p>又、調理くず=本当に廃棄しなくてはいけない物ばかりでは無いと思います。ニンジンや大根の皮。ブロッコリーの芯等を使った調理の授業も良いのでは。</p> <p>楽しみながらゴミの削減が出来れば良いですね。</p> <p>他は可燃ゴミの食品以外の物が何か気になります。老人や赤ちゃんの紙オムツ。ペットシート（我が家の可燃ゴミはほぼこれ）やコロナで増えたペーパータオルでは無いかと思うのですが、これ等のゴミの削減方法も考えられると良いですね。</p>	<p>幼少期からゴミに対する関心を育てることは、非常に重要と考えております。全国には、自治体職員が幼稚園や保育園で出前講座を行う事例があります。受講した子どもたちだけでなく、その両親への波及効果もあったという報告もあることから、子どもたちへの環境学習の一環として施策の検討を進めます。</p> <p>食品ロス調査では、可燃ごみを20品目に分別しております。佐久市の分別区分を基準とし、紙類や容器包装プラスチック（プラマークの表示のあるプラスチック）、ペットボトル、布類についてはリサイクルが可能か否かについても区別しております。紙おむつ、ペットシート、ペーパータオルなど、この水準での具体的な割合は把握できておりませんが、これらの品目の排出量が多いため、削減できれば可燃ごみの減量化に大きく寄与すると考えられます。</p> <p>紙おむつについては、メーカーがリサイクル技術の研究や実証実験を進めており、今後の推移に注視していきたいと考えております。</p>
8	3- (3) 4- (5) 5- (1)	<p>表4-3に示されている施策について、基本的には賛成です。ただ、「検討」が多く、具体的な方策がまだ示されていないので、さらに具体的な案が必要だと思います。</p> <p>細かいことについて、いくつかコメントします。</p> <p>食品ロスおよび可燃ごみの減量に関して</p> <p>図5-1に地域ごと、季節ごとに可燃ごみの内訳が示されていて、興味深いデータだと思います。説明にもありますように、白田地区では生ごみを別に収集しているため、食品ロスの割合が非常に小さくなっていますが、このことから生ごみの処理方法の対策によって可燃ごみを大幅に減量することが可能なことがわかります。また、食品以外の可燃ごみの割合が多いことから、その中身（課題のところに記載されている製品プラスチックの分別や何らかの資源利用が考えられる草木の割合など）を検討することで、可燃ごみの減量に繋がるような気がします。例えば、紙類は資源ごみとして回収されていますが、可燃ごみにも含まれているように思います。また、プラスチックに紙が張り付けてあるものなど、分けることが面倒で可燃ごみ化しているものも多いかと思います。資源ごみとしての紙類はどのように処理されているのでしょうか。どの程度までが資源として許容範囲でしょうか。</p> <p>また、この図5-1では分類した可燃ごみの割合が示されていますが、絶対量を示すことで、季節や地区による相違をさらに検討することが可能になるのではないのでしょうか。ただ、絶対量と言ってもサンプル数が違うでしょうから、1世帯あたりに換算するなど、何らかの基準化が必要だとは思いますが、この食品ロス調査は、1回のごみ収集から、たぶんごみの一部を抽出しているかと思いますが、それぞれサンプル数がどれくらいかなど、調査の具体的な内容を教えてください。</p>	<p>本計画については、2か年での計画策定を進めております。現時点では、現状把握と課題の抽出を進めており、具体的な施策の検討には至っておりませんが、素案の段階では、今後の方向性と具体的な施策や取組内容についてもお示しします。</p> <p>食品ロス調査の生ごみ以外の品目については、No.7の回答をご覧ください。可燃ごみには、適切に分別すればリサイクル可能なもの（紙類や容器包装プラスチック等）や現状の分別区分では可燃ごみであっても、処理体制を整備することでリサイクル可能なもの（製品プラスチック等）が含まれております。リサイクル可能なものにつきましては、分別の周知と徹底に努めます。また、処理体制を整備することでリサイクル可能なものにつきましては、資源化ルートや収集運搬体制について検討を進めます。</p> <p>なお、ラップ等の容器包装プラスチックにラベルがついてはがしにくい場合、ラベルがついたまま容器包装プラスチックとして出していただいても構いません。紙類にプラスチックがついている場合には、外して資源物に出してください。例えば、窓付きの封筒は、プラスチック部分を切り取って雑がみとして出してください。</p> <p>紙類の処理の流れですが、まず、回収された紙類は古紙問屋に集められます。そこで選別・梱包後、製紙工場へ運ばれて資源化されます。</p> <p>図5-1に関して、可燃ごみの割合だけでなく、絶対量を示すことで更なる検討も可能ではないかとご意見をいただきました。今回実施した食品ロス調査では、ごみ収集車または集積場から一部を代表サンプルとしてピックアップして組成を調べております。そのため、各地域の総量については把握することができておりません。ただし、今回の組成調査の結果に加え、可燃ごみの排出量や地区別の人口等を組み合わせ、食品ロスの発生量（1人1日当たりの排出量を含みます。）を推計する予定です。</p> <p>食品ロス調査の採取方法ですが、集合住宅については集合住宅の集積場から、戸建てについてはごみ収集車からごみ袋を採取しております。サンプル数については、各地区30~40袋程度であり、重量が100kg以上になるように採取しております。採取したごみ袋は、1袋ずつ開封し、「調理くず」や「食べ残し」等20品目に人の手で仕分けしております。</p>
9	3- (3)	<p>白田地区の「佐久市堆肥製産センター」で生産される堆肥は、昨今の肥料高騰の影響で需要が高まっていると思いますが、季節によってかなり需要に増減があるのでは。生産過剰になることはないのでしょうか。</p>	<p>「佐久市堆肥製産センター」で生産される堆肥は需要が多く、少なくとも過去10年程度において、生産が過剰になったことはありません。トン単位での堆肥の購入を希望される場合、生産状況に応じてお断りせざるを得ないケースもある状況です。</p>
10	3- (3) 4- (5)	<p>ごみ袋へのごみ処理手数料の上乗せについて</p> <p>以前住んでいた市ではごみ処理手数料は上乗せされていました。そのせいか、一人当たりの家庭ごみ排出量は520~530g/人・日程度でした。可燃ごみの中身が異なるかもしれませんが、プラスチックも可燃ごみだったので、比較的少ない方かもしれません。</p> <p>また、全体の世帯の中でどの程度の割合になるのかわかりませんが、庭の草や剪定した枝や葉っぱなども可燃ごみに出しているのではないかと思います。ごみの出し方にもそう書かれています。私の家でもそうしていますが、可燃ごみのごみ処理手数料を上乗せすれば、ごみの量は多少は減るかもしれませんが。草や木などの植物は処理すれば生物の再生産に使えるはずのものなので、燃やしてしまうのはもったいないような気がしています。ごみ処理手数料の上乗せと並行して、市の支援と個人の多少の手間と負担で、緑のリサイクルというような方策ができれば、ごみの減量に有効かもしれません。可燃ごみ全体に対する割合は把握できていませぬので、割合が小さいなら関係ないかもしれませんが。伐採木は、現在民間の会社に持っていくしかない（会社によっては個人が持ち込むには不適）ので、なかなか億劫です。</p>	<p>ごみ処理手数料の上乗せには、財源の確保のほかにごみ排出抑制の促進や分別による資源化の向上も期待しております。</p> <p>従来可燃ごみに出していたごみを分別し、収集袋が安価である資源物として排出しやすい環境整備をしていくことで、市民の皆様の負担の軽減を図ります。</p>

事前提出された意見等とそれに対する事務局回答（審議事項）

No.	該当箇所	ご意見等	回答
11	3- (3) 4- (5)	雑ビンの回収方法について 少量でも出せるように、常設型の拠点や回収ボックスの設置は有効だと思いますが、袋にビンが溜まるまで時間がかかることだけが問題なら、2, 3本でいっぱいになるような小さいビン専用ごみ袋を作ることも検討の余地があるような気がします。システムを変えなくていいので、各地に常設拠点を新たに設定するより、こちらの方が簡単かもしれません。	アンケート調査でも雑びんの収集に関するご意見をお聞きしております。アンケート結果を踏まえ、いただいたご意見を参考に雑びんの回収方法を検討いたします。
12	3- (3)	排出困難世帯のゴミ出し支援については移住者が増えて、区や組や班の横の繋がりが希薄になって来ている。と思います。その中でどういう風に支援していくか。の検討が難しい課題だと思いました。	排出困難世帯の方々が区や近隣住民の協力を得ることが難しいケースが増えていることから、ごみ出し支援に関しては、福祉部等の関係部署と連携し、望ましい支援のあり方について検討を進めます。
13	4- (1)	基本理念について 世界において地球温暖化の問題は深刻であり、佐久市民においても今日の災害等で関心が深い。環境という言葉を入れ「ごみ減量化と資源化をすすめ、環境にやさしい持続可能で住みよいまちを目指す」とした方がより賛同が得られるのではないかと考えます。	いただいたご意見を参考に、基本理念を以下の通り再検討いたします。 基本理念（案） ごみ減量化と資源化を進め、環境にやさしい持続可能で住みよいまちを目指す ～市民、事業者、行政のパートナーシップで実現する～
14	4- (1)	目指す将来像について ごみを出さないハードルが高すぎるように感じます。出さないではなく「最小限に抑える」とした方がより現実化した将来像になるのではないかと考えます	上位計画である「第二次佐久市環境基本計画（改訂版）」の基本目標を目指す将来像に位置づけているため、目指す将来像は原案のままいたします。
15	4- (2)	P6 予測手法の基礎データ コロナ禍のデータ(外れ値)は省いて解析した方が良くと思います。	ごみ排出量については、項目ごと（上述のとおり）に予測を行いますが、その際、データを項目ごと注意深く検討し、コロナ禍の影響を受けていることが明らかな場合には、外れ値として取り扱います。
16	4- (3)	P7 指標 指標に「堆肥化」に関するものを入れると良いかと思えます。	「堆肥化」に関する指標についても検討いたします。
17	4- (5)	P7の表4-3 「生ごみの堆肥化の検討」とあるが白田地区による歴史ある堆肥化の取り組みは、肥料の高騰化への対応、有機農業への貢献など非常に重要な取り組みである。かなり以前は視察者も多く、今後観光とも連携した佐久市から発信する新たな生ごみの堆肥化の具体化を早期に検討できるチームの立ち上げの検討をお願いしたい。	アンケート調査でも白田地区における生ごみの堆肥化の継続や事業所の生ごみの堆肥化の実施に関するご意見をお聞きしております。アンケート結果を踏まえ、いただいたご意見を参考に、今後の検討体制や生ごみの堆肥化の方向性について検討いたします。
18	4- (5) 5- (3)	食品ロス削減推進計画について 生ごみの削減のために、コンポスターの普及の取り組みも農村ならではの対策になると考えます	佐久市では生ごみ処理機等（生ごみ処理機のほか、コンポストなどの生ごみ処理容器を含みます。）の購入に、予算の範囲内で補助金を交付しております。令和5年度につきましては、申請額が予算に達したため、申請の受付を終了しておりますが、令和6年度以降も継続していく予定です。